子どもの発達と社会認識の育成

本年度の社会科部会は，学校園の研究主題を受けて「子どもの発達段階に即した社会認識の育成を目指す社会科学習－社会生活を豊かにする「問い」の創造と探求する力の育成－」について研究を進めてきた。子どもの社会認識（社会の見方・考え方）の発達に即した授業実践は，科学的な社会認識の育成を目指す社会科教育の基本的な研究課題だと考えられる。それでは，子どもはどのように社会を認識するのだろう，それは学年・学校段階においてどのように発達するのだろうか。ここでは，附属中学校の先生方と筆者らが共同で行った中学生の社会的思考力・判断力の発達調査注）の結果を紹介しながら，子どもの発達と社会認識育成の課題を検討してみたい。

1．中学生の社会的思考力・判断力の発達

表１：授業における「社会的思考力・判断力」と「問い」・「知識」の関わり

問　い	社会的思考力・判断力とその内容		知　識
いつ，どこで，誰が，なにを どのように	事実判断	資（史）料をもとに，事実を確定し記述できる。	事象記述
なぜか，（その結果）どうなるか， （時代の社会の）本質はなにか。	推　論	事象の原因，結果，意味や時代の社会の意義・特質を解釈し説明できる。	事象解釈 時代解釈 社会の一般理論
～よいか（悪いか），望ましいか（望ましくないか）	価値判断	事象を評価的に判断できる。	価値的知識 （評価的知識）
いかに～すべきか	意思決定	論争問題や論争場面において望ましい行為や政策を根拠にもとづいて選択できる。	価値的知識 （規範的知識）
その知識の背後にはどのような価値観や立場性があるか。 その知識は，どのような手続き・方法により主張されているか。	批判的思考	知識（言説）に内在する価値・立場を吟味できる。 知識（言説）の主張の手続き・方法を吟味できる。	メタ知識 （知識を解釈するための知識）

社会科教育で育成を目指す社会的思考力・判断力について，社会的事象に関する「知識」と，問いと資料活用の技能を基盤とする「思考技能」とが一体化した能力であると仮定した（表1を参照）。筆者らは，事実判断や批判的思考力などの諸能力を測る調査問題を作成し，中学生を対象とする横断的・縦断的調査を実施した。その結果，次のような発達の様相が明らかになってきた。

> 中学生の社会的思考力･判断力の発達には，連続性と不連続性という特徴がある。量的増加と共に質的に異なった段階が存在し，その時期は，中学校２年生から３年生にかけてである。また，社会的思考力・判断力を構成する諸能力は独立しているのではなく相互に関連している。

2．子どもの発達に即した社会科学習

「質的に異なった段階」がいわゆる発達段階である。生徒の社会認識の発達過程は，量的増加と共に質的に異なった発達段階に区切られ，連続性と不連続性を有するダイナミックなものであることが示唆された。それでは，中学生の社会的思考力・判断力の質的転換期である２年生から３年生の時期には，どのような授業が発達を促進するために効果があるのだろうか，また発達を促す指導方略とは具体的にはどのようなものか。「子どもの発達段階に即した社会認識の育成を目指す社会科学習」を実践的に検討する附属小・中学校社会科部の研究に期待したい。

（共同研究者：初等教育開発講座，加藤　寿朗）

【参考文献等】
・加藤寿朗・梅津正美「中学生の社会的思考力・判断力の発達に関する横断的調査研究－歴史的分野の調査を中心として－」全国社会科教育学会『社会科教育論叢』49集，2015年，pp.75-84。
・同上「中学生の社会的思考力・判断力の発達に関する縦断的調査研究－歴史的分野の調査を中心として－」日本教科教育学会『日本教科教育学会誌』第38巻第3号，2015年，pp.35-47。